

= 当局の先兵 = 勤労「本部」革マルの敵対を許すな =

貰ひ攻撃を打ち破り入浴争を貫徹しよう

国鉄当局は、六月十六日「入浴問題」と称する基本的見解なるものを発表した。それによる  
と、「いかなる意味でも入浴時間は労働時間とは認めがたい」＝「ノーワーク・ノーベイの  
原則」などとして、汚染職場の労働者の当然の権利、国鉄一〇〇年の歴史のうえに築いてき  
た職場既得権を、「職場規律の乱れ」を「是正」することで、「国鉄再建の命運を決する」  
としている。われわれは、臨調・行革の名の下に國家財政の危機＝国鉄「赤字」の一切の責  
任を国鉄労働者に転嫁する政府・国鉄当局の暴力的攻撃を断じて許さない。

國鐵労働者の不屈の戦闘力

日銃突撃者の不屈の華闘才を示しぬいた偉大な入浴闘争

常識を逸脱した悪慣行」、「世論の厳しい批判があいつぎ」としているが、社会的にとは、政府・自民党・権力・マスコミ・労働「本部」革マル・鉄労だけである。労働者が汚染労働をして、作業終了時にその汚れを洗い流すのは当然であり、それこそ社会的常識である。入浴時間30分を奪いることで、「赤字解消＝国鉄再建」がなし得るのか。労働者を弾圧处分し一切の既得権を剥奪することで、「赤字解消」ができるとでも言うのか？

政府・国鉄当局のこの入浴既得権への強硬な攻撃の目的は、「赤字解消・国鉄再建」を大義名分に、戦闘的国鉄労働運動を解体し、鉄労や勤労「本部」革マルのような当局の手先き、すなわち「もつと働くこう」と奴隸のように卑屈に産業報国会運動を担うマル生分子とマル生組合を育てあげることが目的なのである。

そうであればこそ、われわれとわれわれの先輩  
が多くの血を流して闘いかちとつてきたこれらの  
既得権は、いかなる情勢下であろうと自からなげ  
すててはならないものであり、労働者の闘いの魂  
である。それは単に国鉄労働者ひとりの権利にと  
どまらず、全労働者階級の共通の宝である。

われわれは、労働運動の原点を守り発展させ、  
労働者階級の階級的成長を身をもつてきりひらい  
ていく固い決意の下に立ちきつて、この間の入浴  
闘争がきりひらいた偉大な成果と展望にしつかり  
と確信をもち、新たな段階に入つた入浴闘争を更  
に力強く闘いぬいていこうではないか。

政府・国鉄当局の立場になりきつて入浴闘争批難＝敵対を深める動労「本部」革マル得権全面剥奪」として、国鉄労働者の戦闘的魂

# 日刊 動物学雑誌

83. 7. 4

No. 1381

國鐵千葉動力車労働組合

千葉市要町二二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〇六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

を聞きつぶす攻撃としてかけられてきた。

この攻撃に対しわれわれは、国労の仲間達と共に職場でのねばり強い反撃を闘つてきた。一方勤労「本部」革マルは、「ヤミ・カラ」への

屈服からはじまり、合理化には、組合の名をもつて、「働く運動」なる方針を組合員に強要し、当局の労働運動解体と合理化攻撃に全面協力してきた。さらに入浴闘争では、自ら真先に当局の軍門にくだり、そればかりか、全国の各職場で国労や労働千葉の仲間達が果敢に闘っているそのときに、当局の現認体制と一体となつて、現認し処分を要求するなど、記憶に新しいところである。国労の仲間達が闘いの中から、団交再開をかちとり、入浴闘争中止を発したことを、鬼の首でもとつたように、「屈服した」などと悪バをなげかけ、労働「本部」革マル反動分子のひきまわす地本や支部や青年部などの「情報」等で一斉に愚劣で反動的なケチツケ・中傷文を並べたて、闘う国鉄労働者の血を流すまでの闘い、（入浴闘争に対する処分だけでも賃金カット攻撃、等に続いて、今度は6月25日に大阪で四一四名、6月30日には東京三局第二波六一九名という大量の不当処分攻撃が強行されてきている。しかし、闘う全国の仲間たちは不屈の戦闘精神で闘い続けている）を「無意味な闘い」「挑発だ」と反労働者的に中傷して、あげくは「闘うから権利を奪われる」「闘うな」を説いてまわっているのだ。何という犯罪的、反動的な集団であろうか！

「厳しい情勢だから闘わない」と自ら逃亡す

るということ自体も全く許しがたい行為であるに加えて、更に、それどころか、闘う労働者に背後から襲いかかる、動労「本部」革マルをファシストと言わずして何んといおうか。もはや打倒・一掃なくして、国鉄労働運動の戦闘的再生・勝利はかちとれない。

全国全職場から労働者の敵!!當局の手先!!動  
勞「本部」革マル反動分子を追放・一掃し、職  
場の生き生きとした闘いを守り発展させていこう

=全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!=